

【山梨学院大学】

「令和 6 年度教職課程自己点検・評価報告書」に対するコメント

◎法・経営・スポーツ科学・健康栄養の 4 学部の教職課程運営に関わる教職員の共通理解及び協働体制に基づく教職課程教育が、令和 5 年度に新設された教職センターを軸に実施されており、月 2 回の教職センター運営会議、および拡大教職センター会議等、大学全体で教職課程を運営する取り組みが行われている。教職課程履修者数は、圧倒的にスポーツ科学部における中・高等学校の保健体育免許が多い。

◎4 つの学部ごとに、3 つのポリシーに則って、教職課程が運営されており評価できる。

●基準項目 1-1 で教職課程運営自体をまとめられているが、優れた取り組みや改善の方向性・課題において述べられている組織的工夫や課題については基準項目 1-2 で述べるとよい。また、「教職課程教育の目的・目標」が学生以外に、教職員にはどのような機会にどのような手立てで共有されているかを説明する必要がある。

◎令和 4・5 年度の報告書で課題となっていた ICT 教育環境の整備については、教職センターFD・SD 研修会でデジタル教科書を活用した模擬授業の指導法が取り上げられ、デジタル教科書と併用して利用できるアプリケーションの活用方法を取り上げることで 4 年生の BYOD が促進されていることは大いに評価できる。今後は、改善の方向性にも書かれているように、2, 3 年生にも普及されることが期待される。

●FD・SD 研修会の回数は増やされているが、内容は 2 年連続で授業方法やカリキュラム内容を改善・向上を目指したものであり、大学運営や教育支援活動の資質向上のための SD 研修がなされていたのか、検討の余地がある。

○教職課程の継続（進級）や教育実習履修のための要件（必要な単位の修得や GPA の設定等）を設定して学生の質を担保する仕組みが図られていることが分かるが、学生指導及び教職指導における履修カルテについても、教職課程辞退者の把握や辞退防止への取り組み等が説明されるとさらに良い。

○キャリア支援では、OB・OG による「教育講演会」、地元教育委員会と連携して行う「教育講話」、「教採試験合格体験報告会」など講話を聴く機会が充実している。甲府市・昭和町・笛吹市教育委員会等と連携し、ボランティアに参加する機会を提供されている。

●ボランティアの体験先や参加人数等をデータとともに説明し、体験活動とその振り返り、いわゆる省察の機会がどのように保障されているかを記述するとよい。これらを可視化することで、参加の促し以外に参加に向けた改善の工夫の検討ができると考えられる。

●昨年と同様、全体的に「取り組み観点」に沿った記述になっており、本来必要な、この大学独自の主体的な取り組みや教職課程の独自性に関する点検・評価を加えると良い。また「大学全体の取組」に、建学の理念を踏まえたうえで、大学全体における教職課程の位置づけや果たすべき役割が述べられるとなおよい。

◎全体評価で、昨年度の報告書について本協会が、「審査大学の特色ある取り組み」として紹介し評価したことが、さらなる質向上の取り組みの励みとなったことを述べておられることは、当委員会としても喜ばしい。

令和 7 年 6 月 10 日

一般社団法人全国私立大学教職課程協会 自己点検・評価委員会